

学校関係者評価委員会の意見

学校関係者評価については「学校自己評価の結果の適切さや、学校自己評価の結果を踏まえた今後の改善方針が適切かを評価するもの」であるという観点から評価をしていただいた。学校評価の適切さについて、評価は評価内容の文章表現で変わる。評価内容が全体的に抽象的であり、もっと具体的なものである方が、公平性、信頼性があるのではないかと意見が出された。自己評価が適切かつ良好であるという項目については、今後も今の取組を積極的に継続するようにとの意見をいただいた。今後改善が必要な項目について、改善の方法等について出された意見を下記のとおりまとめた。

(4) 開かれた学校づくり 公開授業・学校行事

体育大会、文化祭への保護者の参加数は年々増加しているが、公開授業へのPTAの参加者が大変少ない。PTAアンケートでは低い評価になっているが、保護者は公開授業を知らないのではないかと。学校を理解してもらうためにも、公開授業の日程等の工夫をしてはどうかという意見をいただいた。

(7) 開かれた学校づくりの推進 情報発信

学年通信・進路通信・保健だより・図書館だより等、各学年・部で趣向を凝らした通信が多数出されており、情報発信は十分になされている。また、ホームページ、ブログ（校長室）等が頻繁に更新され、充実してきており評価できる。また、地域へもっと情報発信する方法を考えてはどうか。例えば、地域の人に学校の活動を知ってもらうために、地域の医療機関、駅、コミセン等に明北新聞等を置いてはどうかという提案を受けた。

(13) 個性や創造性を伸ばす学校教育の充実 教師の指導力向上

自己評価は低いですが、もっと高くても良い。教師は謙遜しているのではないかと。教師が忙しくて研修ができないという悲鳴が聞こえるようだという意見をいただいた。また、大学では授業や教師についての学生アンケートを実施している。生徒による授業評価は授業改善には重要である。また、自分自身の授業に対する自己評価も大切であるという意見もいただいた。生徒アンケートの内容や実施方法等について今後検討していく必要があるのではないかと意見をいただいた。

(15) 豊かな人間性の育成 基本的な生活習慣の確立

全校集会などで挨拶の大切さをアピールしたり、PTAと共同の挨拶運動等を実施した成果として、挨拶はかなりできるようになった。モラルの向上については、高校になってからの教育では難しい面もあるので、家庭との融合が必要であるとの意見をいただいた。

上記の意見を受けて次年度に向けての課題

- ホームページ以外の地域への情報発信の在り方について
- 保護者が参加しやすい公開授業の在り方について
- 学校評価の具体化、保護者・生徒へのアンケートの実施方法等について